

## 審査意見への対応を記載した書類（9月）

（目次）生命科学部 医療技術学科

### 【設置の趣旨・目的等】

#### 1. 【第一次専門審査意見1（2）の回答について】

カリキュラム・ポリシーでは「生物学と物理学を基盤とした臨床工学の知識を習得させるため、学部共通科目と臨床検査学・臨床工学を横断的に学べる共通専門科目を配置する」とされているものの、当該科目区分において「物理学」に関する科目が少なく、履修モデルにおいても、当該科目区分における「物理学」に関する科目の履修が推奨されているようには見受けられないことから、学部共通科目と共通専門科目におけるどの授業科目によって「物理学を基盤とした臨床工学を習得させる」のか明示すること。（改善事項）・・・・・・・・・・2

### 【教育課程等】

#### 2. 【第一次専門審査意見2（1）（2）の回答について】

「審査意見への対応を記載した書類（6月）（資料）」の資料2「ディプロマ・ポリシー（DP）とカリキュラム・ポリシー（CP）との相関図」を確認すると、ディプロマ・ポリシー「EBM（根拠に基づく医療）を実践する医療技術者として必要なコミュニケーション能力を身につけている」は、カリキュラム・ポリシー「EBM（根拠に基づく医療）を実践する医療技術者として必要なコミュニケーション能力を習得するため、3・4年次に臨地実習・臨床実習を配置する」に対応していることから、当該DPを達成するためには、臨地実習・臨床実習に関する授業科目の履修が必要であると見受けられる。しかしながら、これらの科目はいずれも選択科目であることに加え、主要授業科目にも設定されていないことから、履修モデルにおいて履修が推奨されていたとしても、当該実習科目を履修しない学生が生じることが懸念されるため、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに整合した適切な教育課程が編成されているとは判断できない。このため、臨地実習・臨床実習について、卒業要件や主要授業科目としての位置づけを適切に改めること等により、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに整合した教育課程が編成されていることについて、明確に説明すること。（是正事項）・・・・・・・・・・6

(改善事項) 生命科学部 医療技術学科

1. 【第一次専門審査意見1 (2) の回答について】

カリキュラム・ポリシーでは「生物学と物理学を基盤とした臨床工学の知識を習得させるため、学部共通科目と臨床検査学・臨床工学を横断的に学べる共通専門科目を配置する」とされているものの、当該科目区分において「物理学」に関する科目が少なく、履修モデルにおいても、当該科目区分における「物理学」に関する科目の履修が推奨されているには見受けられないことから、学部共通科目と共通専門科目におけるどの授業科目によって「物理学を基盤とした臨床工学を習得させる」のか明示すること。

(対応)

カリキュラム・ポリシーにおいて、「生物学と物理学を基盤とした臨床工学の知識を習得させるため、学部共通科目と臨床検査学・臨床工学を横断的に学べる共通専門科目を配置する」として、これに基づく授業科目を配置していたが、学部共通科目と共通専門科目におけるどの授業科目によって「物理学を基盤とした臨床工学を習得させる」かが不明確であったため、「物理学」に関する科目、「物理学を基盤とした臨床工学を習得させる」科目を以下のとおり明示する。

学部共通科目において、生命科学を学ぶ上で必要な物理の基本的な事項と考え方を学修させる科目として「生命科学のための物理学」を「物理学」に関する科目として配置している。

共通専門科目において、臨床検査学および臨床工学に必要な医用工学について理解させるため生体の構造と機能や生体の物理・化学特性などを学修させる「医用工学概論」、各種の物理エネルギーの特性、その人体への影響、及び人体そのものの物性について学修させる「生体物性工学」、医用材料（バイオマテリアル）の種類・特性とそれらを規制する法律についての知識を学修させる「医用材料工学」を「物理学を基盤とした臨床工学を習得させる」科目として配置している。

以上に関し、カリキュラム・ポリシーの該当項目と教育課程との整合性について、設置の趣旨等を記載した書類【IV. 教育課程の編成の考え方及び特色 2. 科目区分内の科目構成とその理由】へ説明を加える。

なお、設置の趣旨等を記載した書類における【IV. 教育課程の編成の考え方及び特色】について網羅的に見直したところ、「生物学」「化学」に関する科目、「生物学を基盤とした臨床検査学あるいは臨床工学を習得させる」科目、「化学を基盤とした臨床検査学を習得させる」科目に関する授業科目の配置の考え方についても説明が不足していたため、以下のとおり明示する。

学部共通科目において、生物の基本単位である細胞の構造と機能を基礎から習得し、種々の生命現象を制御している細胞内及び細胞間の情報伝達とその応答制御のメカニズムを学

修させる科目として「生命科学のための生物学」を「生物学」に関する科目として配置している。また、生命科学を学ぶ上で、最も基礎となる化学的な概念を学修させる科目として「生命科学のための化学」を「化学」に関する科目として配置している。

共通専門科目において、微生物にはどのような生物が存在し、それぞれどのような特徴があるのかを学修させる「微生物学」、生物学の観点から先端医療を学修させる「再生医療移植学」を「生物学を基盤とした臨床検査学あるいは臨床工学を習得させる」科目として配置している。また、生体（ヒト）を構成する分子の化学構造を正確に理解し、それら化合物の生体内での代謝についても正しく学修させる「生化学」を「化学を基盤とした臨床検査学を習得させる」科目として配置している。

以上に関し、カリキュラム・ポリシーの該当項目と教育課程との整合性について、設置の趣旨等を記載した書類【IV. 教育課程の編成の考え方及び特色 2. 科目区分内の科目構成とその理由】へ説明を加える。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (15 ページ)

新	旧
<p>IV. 教育課程の編成の考え方及び特色</p> <p>2. 科目区分内の科目構成とその理由</p> <p>(略)</p> <p>(2) 学部共通科目</p> <p>学部共通科目として、生命科学を基盤とした医療技術を学ぶために必要な専門への導入科目「<u>生命科学概論 I・II</u>」を配置する。また、CPに定める「<u>生物学を基盤とした臨床検査学あるいは臨床工学の知識</u>」を習得させるため、「<u>生命科学のための生物学</u>」を配置する。次に、CPに定める「<u>化学を基盤とした臨床検査学の知識</u>」を習得させるため、「<u>生命科学のための化学</u>」を配置する。さらに、CPに定める「<u>物理学を基盤とした臨床工学の知識</u>」を習得させるため、「<u>生命科学のための物理学</u>」を配置し、スムーズな専門教育への移行を促す。</p> <p><u>「生命科学のための生物学」は、生物の基本単位である細胞の構造と機能を基礎から習得し、種々の生命現象を制御している細胞内及び細胞間の情報伝達とその応答制御のメカニズムを学修させる。「生命科学のための化学」は、生命科学を学ぶ上で、最も基礎となる化学的な概念を学修させる。「生命科学のための物理学」は、生命科学を学ぶ上で必要な物理の基本的な事項と考え方を学修させる。</u></p>	<p>IV. 教育課程の編成の考え方及び特色</p> <p>2. 科目区分内の科目構成とその理由</p> <p>(略)</p> <p>(2) 学部共通科目</p> <p>学部共通科目として、生命科学を基盤とした医療技術を学ぶために必要な専門への導入科目「<u>生命科学概論 I・II</u>」と基礎科目「<u>生命科学のための生物学</u>」「<u>生命科学のための化学</u>」「<u>生命科学のための物理学</u>」を配置し、スムーズな専門教育への移行を促す。</p>

<p><b>(3) 共通専門科目</b></p> <p>共通専門科目として、臨床検査学と臨床工学に共通する基礎医学分野の科目「解剖学」「生理学Ⅰ」などと、患者中心の医療の基盤となる EBM (根拠に基づく医療) についての理解に必要な科目「医学概論」(必修)「臨床医学総論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」を配置する。</p> <p><u>さらに、CPに定める「生物学と化学を基盤とした臨床検査学あるいは生物学と物理学を基盤とした臨床工学の知識」を習得させるため、生体(ヒト)を構成する分子の化学構造を正確に理解し、それら化合物の生体内での代謝についても正しく学修させる「生化学」、臨床検査学および臨床工学に必要な医用工学の全体について理解するため生体の構造と機能や生体の物理・化学特性などを学修させる「医用工学概論」、各種の物理エネルギーの特性、その人体への影響、及び人体そのものの物性について学修させる「生体物性工学」、医用材料(バイオマテリアル)の種類・特性とそれらを規制する法律についての知識を学修させる「医用材料工学」、微生物にはどのような生物が存在し、それぞれどのような特徴があるのかを学修させる「微生物学」、生物学の観点から先端医療を学修させる「再生医療移植学」を医療技術学科の共通専門科目として配置する。</u></p>	<p><b>(3) 共通専門科目</b></p> <p>共通専門科目として、臨床検査学と臨床工学に共通する基礎医学分野の科目「解剖学」「生理学Ⅰ」「<u>生化学</u>」などと、患者中心の医療の基盤となる EBM (根拠に基づく医療) についての理解に必要な科目「医学概論」(必修)「臨床医学総論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」、<u>臨床検査学・臨床工学の横断的な学修科目として「生体物性工学」「医用材料工学」「再生医療移植学」「検査総合管理学」などを医療技術学科の共通専門科目として配置する。</u></p>
---	--

2. 【第一次専門審査意見2(1)(2)の回答について】

「審査意見への対応を記載した書類(6月)(資料)」の資料2「ディプロマ・ポリシー(DP)とカリキュラム・ポリシー(CP)との相関図」を確認すると、ディプロマ・ポリシー「EBM(根拠に基づく医療)を実践する医療技術者として必要なコミュニケーション能力を身につけている」は、カリキュラム・ポリシー「EBM(根拠に基づく医療)を実践する医療技術者として必要なコミュニケーション能力を習得するため、3・4年次に臨地実習・臨床実習を配置する」に対応していることから、当該DPを達成するためには、臨地実習・臨床実習に関する授業科目の履修が必要であると見受けられる。しかしながら、これらの科目はいずれも選択科目であることに加え、主要授業科目にも設定されていないことから、履修モデルにおいて履修が推奨されていたとしても、当該実習科目を履修しない学生が生じることが懸念されるため、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに整合した適切な教育課程が編成されているとは判断できない。このため、臨地実習・臨床実習について、卒業要件や主要授業科目としての位置づけを適切に改めること等により、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに整合した教育課程が編成されていることについて、明確に説明すること。

(対応)

ディプロマ・ポリシーの「D. 技能」において「EBM(根拠に基づく医療)を実践する医療技術者として必要なコミュニケーション能力を身につけている。」と設定し、これに対応したカリキュラム・ポリシーとして「EBM(根拠に基づく医療)を実践する医療技術者として必要なコミュニケーション能力を習得するため、3・4年次に臨地実習・臨床実習を配置する。(DPのDに関与)」と設定した。審査意見2を踏まえ、臨地実習・臨床実習に関する科目は全て主要授業科目かつ卒業に必要なコース必修科目とすることが望ましいと判断し、以下のように変更する。

臨床検査学コースでは「臨地実習Ⅰ」「臨地実習Ⅱ」「臨地実習Ⅲ」を主要授業科目に設定する。さらにコース必修科目とするため、臨床検査学コースの卒業要件に「臨地実習Ⅰ」「臨地実習Ⅱ」「臨地実習Ⅲ」の修得を新たに追加するよう改める。

臨床工学コースにおいても「臨床実習Ⅰ」「臨床実習Ⅱ」「臨床実習Ⅲ」「臨床実習Ⅳ」「臨床実習Ⅴ」を主要授業科目に設定する。さらにコース必修科目とするため、臨床工学コースの卒業要件に「臨床実習Ⅰ」「臨床実習Ⅱ」「臨床実習Ⅲ」「臨床実習Ⅳ」「臨床実習Ⅴ」の修得を新たに追加するよう改める。

その上で、これらの科目を含め、以下のとおりEBM(根拠に基づく医療)に関する説明を設置の趣旨等を記載した書類【Ⅱ. 学科の特色】【Ⅳ. 教育課程の編成の考え方及び特色】【Ⅴ. 教育方法、履修指導方法及び卒業要件】へ説明を加える。

本学科ではEBM(根拠に基づく医療)を理解し、実践する能力を習得させるため、1年次の「医学概論」(必修)においてEBM(根拠に基づく医療)の目的と考え方をわかりやすく説明し、理解させる。続いて、「フレッシュマンセミナー」「初修外国語1」(必修)「基盤英語(初級)・(準中級)・(中級)・(上級)」 「英語コミュニケーション」(選択必修)においてEBM(根拠に基づく医療)の理解に必要な教養・国際的視野を習得させる。また、共通専門科目と各コース専門科目の学修全体を通してEBM(根拠に基づく医療)の実践に必要な幅広い知識を習得させる。次に、EBM(根拠に基づく医療)の実践に必要な情報を収集し、整理する能力を習得させるためには英語論文の読解力が必要となるため、3年次の「医科学研究論」「ゼミナールⅠ・Ⅱ」では英語論文の読解方法について解説し、実際に医学研究論文を読解させる。4年次では、これまでの知識を研究の場に活かし、問題点や課題と向き合いながら「特別研究」を実施する。最後に、3・4年次の臨地実習または臨床実習において、EBM(根拠に基づく医療)の実践に必要なコミュニケーション能力を養うとともに、EBM(根拠に基づく医療)に関する集大成とする。

このように本学科の特色であるEBM(根拠に基づく医療)に関する教育を実施する。

EBM(根拠に基づく医療)に関係する科目との対応については(表1)のとおりである。

(表1) EBM (根拠に基づく医療) に関する科目とその履修年次

年次		1年次	2年次	3年次	4年次
EBM (根拠に基づく医療) の習得科目					
EBM (根拠に基づく医療) の目的と 考え方を理解させる科目		医学概論			
EBM (根拠に基づく医療) の理解に 必要な教養・国際的視野を習得さ せる科目		フレッシュマンセミナー 初修外国語1 基盤英語 (初級) 基盤英語 (準中級) 基盤英語 (中級) 基盤英語 (上級)	英語コミュニケーション		
EBM (根拠に基づく医療) の実践に必 要な幅広い知識を習得させる科目		共通専門科目 (「医学概論」以外の科目)			
		臨床検査学コース専門科目 (「医科学研究論」「臨地実習Ⅰ」「臨地実習Ⅱ」「臨地実習Ⅲ」以外の科目)			
		臨床工学コース専門科目 (「臨床実習Ⅰ」「臨床実習Ⅱ」「臨床実習Ⅲ」「臨床実習Ⅳ」「臨床実習Ⅴ」「ゼミナールⅠ」「ゼミナールⅡ」以外の科目)			
EBM (根拠に基づ く医療) の実践に 必要な情報を収集 し、整理する能力 を習得させる科目	臨床検査学 コース			医科学研究論	特別研究
	臨床工学コ ース			ゼミナールⅠ ゼミナールⅡ	
EBM (根拠に基づ く医療) の実践に必 要なコミュニケーション能力を養う科 目	臨床検査学 コース			臨地実習Ⅰ	臨地実習Ⅱ 臨地実習Ⅲ
	臨床工学コ ース				臨床実習Ⅰ 臨床実習Ⅱ 臨床実習Ⅲ 臨床実習Ⅳ 臨床実習Ⅴ

(新旧対照表) 基本計画書【教育課程等の概要】(17 ページ)

新	旧
<p>臨床検査学コース専門科目            臨地実習Ⅰ 3通                主要授業科目 ○            臨地実習Ⅱ 4通                主要授業科目 ○            臨地実習Ⅲ 4通                主要授業科目 ○</p>	<p>臨床検査学コース専門科目            臨地実習Ⅰ 3通                主要授業科目            臨地実習Ⅱ 4通                主要授業科目            臨地実習Ⅲ 4通                主要授業科目</p>
<p>臨床工学コース専門科目            臨床実習Ⅰ 4通                主要授業科目 ○            臨床実習Ⅱ 4通                主要授業科目 ○            臨床実習Ⅲ 4通                主要授業科目 ○            臨床実習Ⅳ 4通                主要授業科目 ○            臨床実習Ⅴ 4通                主要授業科目 ○</p>	<p>臨床工学コース専門科目            臨床実習Ⅰ 4通                主要授業科目            臨床実習Ⅱ 4通                主要授業科目            臨床実習Ⅲ 4通                主要授業科目            臨床実習Ⅳ 4通                主要授業科目            臨床実習Ⅴ 4通                主要授業科目</p>
<p>卒業要件及び履修方法            1. 卒業要件                基盤教育科目から必修科目6単位を含み26単位以上(外国語系科目から6単位以上を含む)を修得し、専門教育科目から必修科目3単位を含み76単位以上、合計124単位以上修得すること。                臨床検査学コースの学生は、「<u>医科学研究論</u>」「<u>臨地実習Ⅰ</u>」「<u>臨地実習Ⅱ</u>」「<u>臨地実習Ⅲ</u>」を修得すること。                臨床工学コースの学生は、「<u>臨床実習Ⅰ</u>」「<u>臨床実習Ⅱ</u>」「<u>臨床実習Ⅲ</u>」「<u>臨床実習Ⅳ</u>」「<u>臨床実習Ⅴ</u>」「<u>ゼミナールⅠ</u>」「<u>ゼミナールⅡ</u>」を修得すること。</p>	<p>卒業要件及び履修方法            1. 卒業要件                基盤教育科目から必修科目6単位を含み26単位以上(外国語系科目から6単位以上を含む)を修得し、専門教育科目から必修科目3単位を含み76単位以上、合計124単位以上修得すること。                臨床検査学コースの学生は、「<u>医科学研究論</u>」を修得すること。                臨床工学コースの学生は、「<u>ゼミナールⅠ</u>」「<u>ゼミナールⅡ</u>」を修得すること。</p>

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (11 ページ)

新	旧
<p><b>II. 学科の特色</b></p> <p>(略)</p> <p><u>本学科では EBM(根拠に基づく医療)を理解し、実践する能力を習得させるため、EBM(根拠に基づく医療)の目的と考え方をわかりやすく説明し、理解させる。続いて、EBM(根拠に基づく医療)の理解に必要な教養・国際的視野を習得させる。また、共通専門科目と各コース専門科目の学修全体を通して EBM(根拠に基づく医療)の実践に必要な幅広い知識を習得させる。次に、EBM(根拠に基づく医療)の実践に必要な情報を収集し、整理する能力を習得させる。最後に、EBM(根拠に基づく医療)の実践に必要なコミュニケーション能力を養う。このように、EBM(根拠に基づく医療)に関する教育を実施する。</u></p> <p><u>さらに臨地実習・臨床実習などの医療機関での学修に必要な医療技術に関する総合的な理解と基本的な手技を学生が自主的に身につけることができるように、臨床検査学・臨床工学の基礎的な医療機器とシミュレータ等を整備したスキルラボを新たに準備し学生が主体的に活用できるようにする。臨床検査学コースでは4年次に実施する病院等での臨地実習前に「臨床能力試験」を課すことにより、試験の前には臨床</u></p>	<p><b>II. 学科の特色</b></p> <p>(略)</p> <p><u>また臨地実習・臨床実習などの医療機関での学修に必要な医療技術に関する総合的な理解と基本的な手技を学生が自主的に身につけることができるように、臨床検査学・臨床工学の基礎的な医療機器とシミュレータ等を整備したスキルラボを新たに準備し学生が主体的に活用できるようにする。臨床検査学コースでは4年次に実施する病院等での臨地実習前に「臨床能力試験」を課すことにより、試験の前には臨床検査</u></p>

<p>検査の基本手技や医療倫理・接遇を含めた実務に必要なスキルの確認も行う。同様に病院実習科目をカリキュラムに配置している臨床工学コースにおいても、このような臨床スキルの能力試験を必要に応じて取り入れる。また、両コースでの資格取得に向けた学修に CBT (Computer-Based Testing) を実施する。医療技術学科ではこのような自主学修システムと前述のスキルラボを中心として、学生の病院実習や資格取得をサポートする体制を整備する。</p> <p><u>本学科を</u>バイオサイエンスとその応用分野について学ぶ生物科学科を擁する生命科学部に設置することで、初年次に生命科学の基本を理解するための学部共通の入門科目（「生命科学概論Ⅰ・Ⅱ」「生命科学のための生物学」など）を開講することで、生命科学における様々な視点を知ることができ、専門科目を学ぶための広い基盤を築くことが可能となる。</p>	<p>の基本手技や医療倫理・接遇を含めた実務に必要なスキルの確認も行う。同様に病院実習科目をカリキュラムに配置している臨床工学コースにおいても、このような臨床スキルの能力試験を必要に応じて取り入れる。また、両コースでの資格取得に向けた学修に CBT (Computer-Based Testing) を実施する。医療技術学科ではこのような自主学修システムと前述のスキルラボを中心として、学生の病院実習や資格取得をサポートする体制を整備する。</p> <p><u>医療技術学科では、両コースとも特別研究を行うことで医療技術者に必要なサイエンスマインドを身につけさせる。また、EBM（根拠に基づく医療）を理解し、実践する能力を習得させるため、基盤教育科目・専門教育科目を全体的に履修させる。</u></p> <p><u>また</u>バイオサイエンスとその応用分野について学ぶ生物科学科を擁する生命科学部に<u>医療技術学科</u>を設置することで、初年次に生命科学の基本を理解するための学部共通の入門科目（「生命科学概論Ⅰ・Ⅱ」「生命科学のための生物学」など）を開講することで、生命科学における様々な視点を知ることができ、専門科目を学ぶための広い基盤を築くことが可能となる。</p>
--	---

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (13 ページ)

新	旧
<p>IV. 教育課程の編成の考え方及び特色</p> <p>1. 科目区分と配当年次の設定の理由</p> <p>(略)</p> <p>3年次では、臨床現場において個々の事例における状況を判断し、患者中心の医療に必要な医療技術を提案することができる能力を習得させるため、コース専門科目(講義)を配置する。</p> <p>EBM(根拠に基づく医療)を実践する医療技術者として必要なコミュニケーション能力を身につけるために、3・4年次に臨地実習・臨床実習を配置する。</p> <p>医療人に必要なサイエンスマインドと自主的学修の習慣を習得させるため、3年次に医科学研究論・ゼミナール、4年次に特別研究を配置する。</p> <p>EBM(根拠に基づく医療)の実践に必要な情報を収集し、整理する能力を習得させるため、3年次に医科学研究論・ゼミナール、4年次に特別研究を配置する。</p> <p>学部共通科目や全学年で履修可能な基盤教育科目を通じて、医療技術者として必要とされる教養・国際的視野・基礎的な知識を身につける。さらにコース専門科目や臨地実習・臨床実習を通じて、医療人としての誇りと倫理観を身につける。</p> <p>また、本学科ではEBM(根拠に基づく医療)</p>	<p>IV. 教育課程の編成の考え方及び特色</p> <p>1. 科目区分と配当年次の設定の理由</p> <p>(略)</p> <p>3年次では、臨床現場において個々の事例における状況を判断し、患者中心の医療に必要な医療技術を提案することができる能力を習得させるため、コース専門科目(講義)を配置する。</p> <p>EBM(根拠に基づく医療)を実践する医療技術者として必要なコミュニケーション能力を身につけるために、3・4年次に臨地実習・臨床実習を配置する。</p> <p>医療人に必要なサイエンスマインドと自主的学修の習慣を習得させるため、3年次に医科学研究論・ゼミナール、4年次に特別研究を配置する。</p> <p>EBM(根拠に基づく医療)の実践に必要な情報を収集し、整理する能力を習得させるため、3年次に医科学研究論・ゼミナール、4年次に特別研究を配置する。</p> <p>学部共通科目や全学年で履修可能な基盤教育科目を通じて、医療技術者として必要とされる教養・国際的視野・基礎的な知識を身につける。さらにコース専門科目や臨地実習・臨床実習を通じて、医療人としての誇りと倫理観を身につける。</p>

を理解し、実践する能力を習得させるため、  
1年次の「医学概論」(必修)において  
EBM(根拠に基づく医療)の目的と考え方を  
わかりやすく説明し、理解させる。続いて、  
「フレッシュマンセミナー」「初修外国語  
1」(必修)「基盤英語(初級)・(準中級)・  
(中級)・(上級)」「英語コミュニケーション」(選択必修)においてEBM(根拠に基づく  
医療)の理解に必要な教養・国際的視野を習  
得させる。また、共通専門科目と各コース  
専門科目の学修全体を通してEBM(根拠に基  
づく医療)の実践に必要な幅広い知識を習  
得させる。次に、EBM(根拠に基づく医療)  
の実践に必要な情報を収集し、整理する能  
力を習得させるためには英語論文の読解力  
が必要となるため、3年次の「医科学研究  
論」「ゼミナールI・II」では英語論文の読  
解方法について解説し、実際に医学研究論  
文を読解させる。4年次では、これまでの  
知識を研究の場に活かし、問題点や課題と  
向き合いながら「特別研究」を実施する。最  
後に、3・4年次の臨地実習または臨床実  
習において、EBM(根拠に基づく医療)の実践  
に必要なコミュニケーション能力を養うとと  
もに、EBM(根拠に基づく医療)に関する集  
大成とする。

このように本学科の特色であるEBM(根拠  
に基づく医療)に関する教育を実施する。

EBM(根拠に基づく医療)に関係する科目  
との対応については(表1)のとおりであ  
る。

<p><u>(表1) EBM (根拠に基づく医療) に関する科目とその履修年次</u></p> <p>上記科目における知識量、理解度、能力については、客観的な指標、学習及び発表に関わる成果物などを利用して総合的に評価を行い、教育課程を継続的に評価・検証する。</p> <p>さらに、カリキュラムチェックリスト【資料2】を作成し、DPとCPとの相関性を示している。</p>	<p>上記科目における知識量、理解度、能力については、客観的な指標、学習及び発表に関わる成果物などを利用して総合的に評価を行い、教育課程を継続的に評価・検証する。</p> <p>さらに、カリキュラムチェックリスト【資料2】を作成し、DPとCPとの相関性を示している。</p>
---	---

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (16 ページ)

新	旧
<p>IV. 教育課程の編成の考え方及び特色</p> <p>2. 科目区分内の科目構成とその理由</p> <p>(略)</p> <p>(4) 臨床検査学コース専門科目</p> <p>(略)</p> <p>臨床検査技師として必要な知識・技術と EBM (根拠に基づく医療) を実践する医療技術者として必要なコミュニケーション能力の双方が身につく科目構成とし、<u>臨床検査学コースでは「臨地実習 I・II・III」を修得することを必須とする。</u></p> <p><u>以上の授業科目について、学修の段階や順序が俯瞰できるよう、カリキュラムツリー【資料 3-1】に図示している。</u></p> <p>(5) 臨床工学コース専門科目</p> <p>(略)</p> <p>臨床工学技士として必要な総合的な知識・技術と EBM (根拠に基づく医療) を実践する医療技術者として必要なコミュニケーション能力を習得できるように「臨床工学演習 I・II」「臨床実習 I・II・III・IV・V」を</p>	<p>IV. 教育課程の編成の考え方及び特色</p> <p>2. 科目区分内の科目構成とその理由</p> <p>(略)</p> <p>(4) 臨床検査学コース専門科目</p> <p>(略)</p> <p>臨床検査技師として必要な知識・技術と EBM (根拠に基づく医療) を実践する医療技術者として必要なコミュニケーション能力の双方が身につく科目構成とした。<u>以上の学科専門科目・臨床検査学コース専門科目を DP との関連に基づいて「医学基礎科目」「臨床検査科目」「臨地実習科目」「研究系科目」に分類し、カリキュラムツリー【資料 3-1】で、学修の段階や順序が俯瞰できるよう、図示している。</u></p> <p>(5) 臨床工学コース専門科目</p> <p>(略)</p> <p>臨床工学技士として必要な総合的な知識・技術と EBM (根拠に基づく医療) を実践する医療技術者として必要なコミュニケーション能力を習得できるように「臨床工学演習 I・II」「臨床実習 I～V」を配置する。ま</p>

<p>配置し、臨床工学コースでは「臨床実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ」を修得することを必須とする。</p> <p>以上の授業科目について、学修の段階や順序が俯瞰できるよう、カリキュラムツリー【資料3-2】に図示している。</p>	<p>た、カリキュラムツリー【資料3-2】で、学修の段階や順序が俯瞰できるよう、図示している。</p>
--	---

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (18 ページ)

新	旧
<p>IV. 教育課程の編成の考え方及び特色</p> <p>3. 主要授業科目の設定の考え方</p> <p>(略)</p> <p>(2) 専門教育科目</p> <p>(略)</p> <p>臨床検査学コース専門科目では、「生理検査学Ⅰ」「医療安全管理学」「病理検査学Ⅰ」「分子遺伝学」「生化学検査学」「一般検査寄生虫学」「血液検査学Ⅰ」「輸血検査学」「病原微生物学」「医科学研究論」「<u>臨地実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ</u>」を主要授業科目とする。</p> <p>臨床工学コース専門科目では、「基礎医学実習」「電気工学Ⅰ」「電気工学Ⅱ」「電子工学」「システム工学」「計測工学」「医用機器学概論」「医用治療機器学」「医用生体計測装置学」「臨床支援技術学」「生体機能代行装置学Ⅲ」「医療安全学」「<u>臨床実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ</u>」「ゼミナールⅠ・Ⅱ」を主要授業科目とする。</p>	<p>IV. 教育課程の編成の考え方及び特色</p> <p>3. 主要授業科目の設定の考え方</p> <p>(略)</p> <p>(2) 専門教育科目</p> <p>(略)</p> <p>臨床検査学コース専門科目では、「生理検査学Ⅰ」「医療安全管理学」「病理検査学Ⅰ」「分子遺伝学」「生化学検査学」「一般検査寄生虫学」「血液検査学Ⅰ」「輸血検査学」「病原微生物学」「医科学研究論」を主要授業科目とする。</p> <p>臨床工学コース専門科目では、「基礎医学実習」「電気工学Ⅰ」「電気工学Ⅱ」「電子工学」「システム工学」「計測工学」「医用機器学概論」「医用治療機器学」「医用生体計測装置学」「臨床支援技術学」「生体機能代行装置学Ⅲ」「医療安全学」「ゼミナールⅠ・Ⅱ」を主要授業科目とする。</p>

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (23 ページ)

新	旧
<p>V. 教育方法、履修指導方法及び卒業要件 3. 成績評価基準・G P A ・進級条件・卒業要件</p> <p>(略)</p> <p>(4) 卒業要件</p> <p>科目区分 基盤教育科目</p> <p>修得単位数 26 単位以上 (必修科目 6 単位を含む) ・ 外国語教育科目を 3 科目 6 単位以上修得すること。</p> <p>卒業要件 ・外国語教育科目を 3 科目 6 単位以上修得すること。</p> <p>科目区分 専門教育科目</p> <p>修得単位数 76 単位以上 (必修科目 3 単位を含む)</p> <p>卒業要件 [臨床検査学コース] ・「情報リテラシー」「医学概論」「医科学研究論」「<u>臨床実習Ⅰ</u>」「<u>臨床実習Ⅱ</u>」「<u>臨床実習Ⅲ</u>」「<u>臨床実習Ⅳ</u>」「<u>臨床実習Ⅴ</u>」「<u>ゼミナールⅠ</u>」「<u>ゼミナールⅡ</u>」「特別研究」をすべて修得すること。</p>	<p>V. 教育方法、履修指導方法及び卒業要件 3. 成績評価基準・G P A ・進級条件・卒業要件</p> <p>(略)</p> <p>(4) 卒業要件</p> <p>科目区分 基盤教育科目</p> <p>修得単位数 26 単位以上 (必修科目 6 単位を含む) ・ 外国語教育科目を 3 科目 6 単位以上修得すること。</p> <p>卒業要件 ・外国語教育科目を 3 科目 6 単位以上修得すること。</p> <p>科目区分 専門教育科目</p> <p>修得単位数 76 単位以上 (必修科目 3 単位を含む)</p> <p>卒業要件 [臨床検査学コース] ・「情報リテラシー」「医学概論」「医科学研究論」「特別研究」をすべて修得すること。</p> <p>[臨床工学コース] ・「情報リテラシー」「医学概論」「<u>ゼミナールⅠ</u>」「<u>ゼミナールⅡ</u>」「<u>臨床実習Ⅰ</u>」「<u>臨床工学演習Ⅱ</u>」「特別研究」をすべて修得すること。</p>

<p>合計 124 単位以上</p> <p>医療技術学科の卒業時までには修得すべき単位数は 124 単位以上である。卒業要件は、基盤教育科目 26 単位以上、専門教育科目 76 単位以上である。</p>	<p>合計 124 単位以上</p> <p>医療技術学科の卒業時までには修得すべき単位数は 124 単位以上である。卒業要件は、基盤教育科目 26 単位以上、専門教育科目 76 単位以上である。</p>
---	---